

2022 年度 北陸産学技術交流会のアンケート結果

1. 技術交流会の開催状況

会員企業・大学に情報交換テーマを募集したところ4団体から4テーマの応募があり、提案団体（主査）と打合せを実施し、4テーマで技術交流会を開催した。

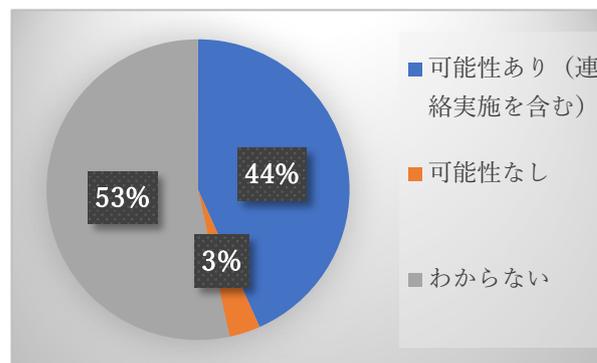
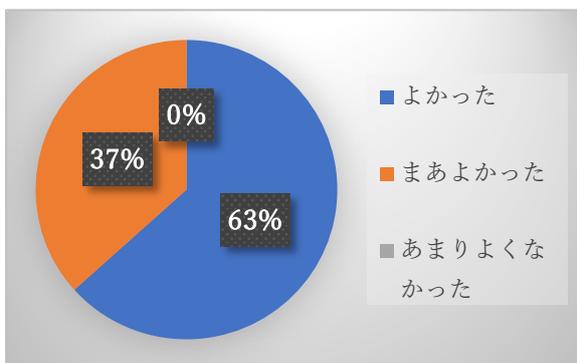
別紙「新たな価値創出委員会 2022 年度 北陸産学技術交流会（情報交換・見学会）」

2. 参加者アンケート結果 [回答：30名（参加者34名）]

(1) 技術交流会に参加して有意義でしたか？ (2) 今後連絡をとりあう可能性はありますか？

・よかった	19
・まあよかった	11
・あまりよくなかった	0

・可能性あり（連絡実施を含む）	13
・可能性なし	1
・わからない	16



(3) 自由意見（○：肯定、△：改善・気が付いた点）

- 今まで接点がなかった企業の取組み状況や課題を共有できて参考になった。
- 異業種連携を進める上で有意義な場であった。
- 共同研究開発の進め方について大学の状況が把握出来て良かった。
- 現場での生の声や悩み、取り組みについて情報収集できたことは有意義と感じた。
- 地元企業が大学を活用して、大学は地元企業と連携することにより研究シーズを見つけ共同研究の起点となる取組みだと思う。
- △意見交換の時間をもう少し長く取ったほうが良い。
- △事例紹介もしくは取組予定をより多く聞ける場面があればよいかと思う。
- △実務者の交流会と思って参加したが、企業の上役の方が参加されており緊張した。

3. 主査アンケート結果 [回答：4（主査：4）]

(1) 交流会開催の成果がありましたか？

・期待以上の成果があった	2
・まあまあ成果があった	2
・あまり成果がなかった	0

(2) 連絡をとりあう可能性はありますか？

・可能性あり（連絡実施を含む）	4
・可能性なし	0
・わからない	0

(3) どのような成果がありましたか？

- ・この交流会を通じて本学の新しい取り組みを知ってもらえた。どの程度のサービスを大学で引き受けられるのかを尋ねられ、他の出席者にも内容を知って頂けた。
- ・企業側のニーズを深く知ることができ、本学が実施している「学術コンサルティング」も紹介することもできた。
- ・本テーマに対する関心が高いこと、各企業の取り組みや課題などを把握できた。
- ・参加者との意見交換を通じて、紹介した研究テーマに関し異なる観点からの機能や特徴を整理する良い機会となった。フィールド検証における長期PBLの提案もあったため学内で検討したい。
- ・通常業務や営業活動の中では接点がない企業・大学と面識を持つことができた。
- ・大学からの参加者の研究紹介により、最新技術動向を知ることができた。

(4) 今後開催される主査への運営面でのアドバイス等

- ・このような情報交換会を通じて、課題の共有やニーズの掘り起こしなど新たな取り組みにつなげていけるのではないかと感じた。
- ・大学等の研究機関から参加頂けると、多角的な視点での意見、最新の情報が得られるため、企業側としては交流会参加のメリットが大きくなるのではないかと感じた。
- ・議論の場としての技術交流会に加えて、参加者間のコミュニケーションを深めるための技術交流会後の懇親会を開催できればなお良い。

(5) 次年度の技術交流会テーマ募集があったら再度応募しますか？

・応募したい	0
・応募を検討する	3
・応募はしない	0
・わからない	1

4. 事務局としての評価と今後の対応案

昨年度(2021年度)は企業主査で5件のテーマで開催したが、本年度は大学から2件および企業から2件の提案があり、計4つのテーマで技術交流会を開催した。

参加者アンケートでは、「よかった(63%)」「連絡の可能性あり(44%)」、主査アンケートでは「期待以上の成果(50%)」「連絡の可能性あり(100%)」であり、オープンイノベーション促進の契機となる交流の場の提供という目的に合致した取組みと考える。

本取組みが一定の評価を得たことより次年度も開催する。

企業主査のテーマの技術交流会で大学研究者の参加があると、関連する研究内容紹介や企業参加者とは違った視点の発言があり、企業側参加者の刺激にもなると感じた。

また、参加者アンケートで「情報交換時間はもう少し長い方がよい」との意見が散見されたため、参加人数等を見ながら進め方や時間配分について主査に助言をしていく。

以上